

会議結果（要旨）

会議名	平成28年度 第2回 音更町地域公共交通活性化協議会分科会
開催日時	平成29年1月25日（水） 午後1時30分から午後2時45分
開催場所	音更町役場4階 401・402会議室
出席者	別紙出席者名簿のとおり
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会、あいさつ 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音更町地域公共交通網形成計画（素案）について (2) その他 3 閉会
会議資料	別紙のとおり
会議結果	下記のとおり
出された 主な意見等	<p>■議事（1）音更町地域公共交通網形成計画（素案）について</p> <p>委員：現段階で農村部の交通はどういったものを考えているのか。コミバスを広範囲で走らせることは難しいと思うが、例えば、万年のようにある程度戸数のまとまっているところは、予約型タクシーへの補助とか、そういった具体的なところまで考えているのか。</p> <p>事務局：実際に農村部の皆さんの意見、考えを多く反映した形で考えたい。農村部の中でも集落の形態になっているところと、そうではないところがあり、どういうやり方がいいのか、実施計画の中で練っていくことになるかと思う。</p> <p>会長：町の予算の関係等もあって、おそらく、農村部全地域一斉に同じ交通手段を導入するのは難しく、まずは農村部の中でもターゲットを決めて重点的にやり、うまくいったら範囲を広げてみるというのを何年かかけてやるという形になっていくと思う。計画にはどこまでやるかは書いていないが、まずは、こういうのをやってみようという方向性ということだと思う。</p> <p>委員：最初はモニタリング的という考えはいいと思うが、地域を広げていけば、それだけお金がかかることになり、また、補助金も無限にあるわけではないので、地域住民の負担も大きくなる。最初に計画を立てた時と同じ形にならないのでは。</p> <p>事務局：制度設計はこれからなので何とも言えないが、今回の網形成計画策定も国から補助をもらっており、実施計画策定や再編事業実施にも一定の国の補助はあるだろうと見込んでいる。</p> <p>委員：多く走れば国からその分だけ多く補助をもらえるのか。</p> <p>事務局：全体的に国の補助は厳しい傾向にあるのが現状であるが、一度利用料が決まったらある程度それを継続するなど最低限のサービスは確保しなければならないと思っている。</p> <p>委員：例えば、拠点を音更市街地に置くのか、農村部にある路線バスのバス停までとするのかによっても変わってくる。金額的なこともあり、一人ひとり全部乗せていくというのは大きな問題だと思う。</p> <p>事務局：路線バスとの接続を考慮したターミナル的機能の考え方はある。</p> <p>会長：こういった農村地域で公共交通をしっかりと確立したところは私の知る範囲で</p>

は無いと思うが、例えば、ドアツードアのタクシーチケットを配るとした場合、中心市街地の住民からは、なぜ郊外部がドアツードアで、中心市街地は歩かなければならないんだという声が出るなど、合意形成を図るのは大変。
コミバスと同じサービスレベルを農村部で求めるのは現実的に厳しいと思うが、地域を決めて、週1回、2回の頻度で中心市街地に行けるとい形であればバス1台でも回すことはできると思う。それを一斉にやると何台ものバスが必要ということになってしまうので、色々なことを考えて丁寧に議論していくということと、どれだけ運行経費を確保できるかという両面から見ていくことになるのではないかと。

委員：いくら音更の人口が多いからといって、全部を公共交通で網羅することは無理ではないか。

会長：マイカーでの乗り合いを地域の公共交通と打ち出しているところもあり、最後はそういうところも含めての話になってくると思う。

事務局：鹿追線や上士幌線など幹線道路を走っているバスやスクールバスの混乗で農村部の一部の住民は今でもバスを利用しているが、資料にあるとおり農村部のほとんどが公共交通空白地帯となっているので、町として何かしなしなければいけないとは思っている。

会長：具体的にどういう交通があればいいと考えるか。

委員：一番は歩ける範囲で安心して生活ができる環境があるということでは。

会長：そうすると引っ越して下さいという話にもなってしまう。

事務局：コンパクトシティの考え方もあるが、音更の場合はそうはならない。基幹産業の農業を支えている農村部には強いコミュニティがあり、維持していかなければならない。これまではマイカーで対応できていたが、高齢化等によって今後はそれも厳しくなる中でも一定の安心な生活を守っていかなければならないという考え。

会長：農村部では車を使える人は車を使って下さいというのが前提になると思う。車が運転できなくて外出したくてもできない人の足をいかに確保するか、中心市街地のコミバスの利用促進とは違った方向性の議論が必要で、最低限必要な公共交通はどれくらいか、週何回外出できればいいのか、中心市街地まで乗り換えなしの交通がいいのか、幹線バスに乗り換えるための最短のところまでいいのか、そういうことも一つ一つ議論が必要。

計画の基本方針に地域住民が関わる内容が少なく、例えば、郊外部の乗り換え拠点となるところも、屋根もないようなバス停でただ幹線バスを待っているのではなく、町と住民が一体となってバスを待てるような場所を確保するなど、もっと地域と協力しながらやっていかなければいけないという問題意識は持っている。住民ができること、あるいは、商店ができることがもっとあるのではないかと。

委員：地域ごとに、運転ができない、買い物に行けないという人たちが集まって議論していただくという方法もとれるのでは。

会長：本当に必要な人の意見を聞くのは大事。
あとは、観光の視点がない。音更町の全体の活性化という意味で、例えば、観光客が公共交通を使って十勝川温泉に行くというような取組の視点が、多くの自治体で計画に組み込んでいる。十勝川温泉、あるいは、他の音更の観光スポットへの公共交通の整備、利便性向上、そういった必要性は皆さんから見てどうか。

委員：すでに路線バスが走っているので、町としては新たに公共交通を走らせるのは無理があるという立場なのでは。

会長：新たに何かやろうということではなく、例えば、コミバスの乗り換え拠点を

作って、実はバスでも十勝川温泉に行けますというようなことをやった時に、町民のニーズはあるのかどうか。

委員：各ホテルが所有するバスを利用しているのでは。

事務局：例えば、町内の人向けには乗り換えをスムーズにするというのものもあるし、JRを利用して来る観光客にはバス運賃を安くするといった取組も実際にやっている。

会長：新たに何かを作る、路線を引っ張るということをする必要はなく、きちんと活用するというのを位置付けて書き込むことが大事で、それが音更町としてのメッセージになってくると思う。上位計画でも観光は大事であると位置付けられているので。分科会としては、文言整理については協議会に任せるということでよろしいか。協議会でも、あえて無理して載せる必要はない、生活交通をしっかりとっていけばいいという方向性もあるかと思う。

また、今日の議論では、商工会や商店街との連携の視点が抜けているので協議会の中で審議させていただきたいと思う。

■議事（２）その他

※事務局より、今後のスケジュール等について説明。